

【別紙 2】

「令和 5 年度保健医療と福祉の事例発表会」抄録原稿

題 名	茨城県の眼科定点におけるアデノウイルス検出状況について
所属（職名）	衛生研究所 技師
氏 名	田口 もなみ、小室慶子、大久保朝香、大澤修一、 絹川恵里奈、樫村 諒、上野 恵、阿部櫻子
はじめに	流行性角結膜炎は主に D 種及び E 種アデノウイルスによる疾患で、主として手を介した接触により感染する。感染症法において、流行性角結膜炎は 5 類感染症定点把握疾患に定められている。全国約 600 か所の眼科定点医療機関から毎週患者数報告がなされ、その一部において病原体定点として検体採取を行っている。2019 年 12 月に世界で初めて確認されて以来、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は世界中に多大な影響を与え、感染症発生動向調査にも影響を及ぼした。
目 的	2019 年 1 月から 2023 年 12 月までの 5 年間ににおける流行性角結膜炎の発生状況、検体数、検出された病原体について調査し、COVID-19 流行前後における流行性角結膜炎患者の推移について概要を報告する。
内 容	定点当たりの患者報告数は、COVID-19 流行の始まった 2020 年から減少し、COVID-19 が 5 類へ移行となった 2023 年に再び増加傾向を示した。当所では病原体サーベイランス事業として、眼科定点から対象疾患の検体の提出を受け、流行しているウイルスの種類や遺伝子を把握し、その情報を提供している。眼科定点より提供のあった検体について調査したところ、2019 年から 2021 年までは検体提供がなく、2022 年、2023 年は計 16 件の提供があった。提供された検体 16 件のうち 14 件でアデノウイルスを検出した。
成 果	検出されたアデノウイルスについてダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定し、参照配列を用いて系統樹解析により遺伝子型を決定した。型別検出状況については、2022 年に D 種 37 型が 3 件検出された。2023 年は D 種 64 型の 4 件が最多で、D 種 56 型が 3 件、その他、同じ D 種アデノウイルスである 54 型、37 型等広く検出された。2023 年は全国的にも検出数が増加し、多くの遺伝子型のアデノウイルスが検出された。
考 察	2020 年から 2022 年において、流行性角結膜炎の患者報告数及び病原体検出数は減少傾向を示した。COVID-19 流行により標準予防策の周知等、感染症対策が影響したためと史料される。COVID-19 が 5 類に移行した 2023 年には流行性角結膜炎患者数が COVID-19 流行以前と同様に増加傾向を示し、患者検体からは多くの遺伝子型のアデノウイルスが検出された。また、2023 年は咽頭結膜熱流行の影響により、2020

	年から 2022 年までほとんどみられなかった B 種 3 型の検出数が全国的に増加した。
まとめ ※今後業務にどのように活用するかを記載	感染症発生動向調査における病原体サーベイランス事業は、病原体情報を収集し分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的としている。今後も引き続き県内の流行状況を注視し、迅速な情報提供を行うことで、公衆衛生対策に役立てたい。